

事業見直しの考え方

事業見直し案については、以下の考え方に沿って、行政内部で検討を進め、取りまとめたものです。

(1) 以下の観点から事業を検証し、見直しを図ります。

観点		チェックポイント	
A	不可欠性	01	内容に公益性が乏しい
		02	内容が現在又は将来の市民ニーズに合わない
		03	内容が現在の社会経済情勢に合わない
		04	目的が上位の施策展開方針に合わない
		05	既に目的を達成している
B	市が実施する必要性	06	民間企業に任せるべきである
		07	地域に任せるべきである
		08	国又は県が実施すべき領域である
C	有効性	09	目的の達成に対する効果が小さい
		10	他自治体に比して過剰な水準となっている
		11	設計されたとおりに運用されていない
		12	期待されたとおりの効果が表れていない
D	金額の妥当性	13	効果に比してコストが大きい
		14	効果を維持向上したうえでコストを削減する余地がある
E	公平性	15	対象者等に公平に効果が及んでいない
		16	コスト、受益の度合い、公益性を勘案して受益者負担が低い
F	優先性・緊急性	17	以上のチェックポイントの判断の結果、類似目的の他の事業や施設等に比して優先度・緊急度が低い

事業の検証においては、事業の客観的な要素について、以下の状況に当てはまっていないか確認しました。

要素		状況
ア	利用状況	<ul style="list-style-type: none"> サービスの利用状況、イベントの参加者数が低い サービスの利用者、イベントの参加者が事業対象者の一部に偏っている
イ	継続期間	長期間継続して事業を実施している
ウ	他自治体の状況	近隣・類似自治体を上回る水準となっている

(2) また、事業の実施方法に着目し、以下の状況に当てはまる事業について、見直しを検討しました。

実施方法		状況
①	個人給付	年齢など形式的な基準で一律に給付している
②	補助等	市からの支出金が主に団体自体の運営経費に充てられている
③	イベント	開催そのものが目的となっている